

# 女性呼吸器外科医として

自分らしく呼吸器外科医としての道を歩み続けられるよう



私は、かかあ天下とからっ風が名物とされる群馬県で、旅館経営をする両親のもとに生まれました。群馬県、中でも私の故郷伊香保町の女性の就業率は全国平均と比べ高いとされますが、さらに、女将として朝早くから夜遅くまで働く母の姿を間近に見て育ちました。

女性が働くことは当たり前だと考えていた私でしたが、それでも女性が外科医として働き続けられるのか不安な思いで女子医大第一外科に入局しました。そこには不安を吹き飛ばすような濃い先輩女性医師もおり、忙しいながらも充実した

研修生活を送ることができました。卒後6年目、都立病院への出向が決まった矢先に妊娠がわかりました。出向予定の病院は呼吸器外科医が3人で、多くの手術を行う忙しい病棟です。3人のうちの1人として役に立てるのか、迷惑ではないかと心配しましたが、産休時期の応援医師派遣など医局のサポートもあり、出向先の部長、先輩医師は私を快く受け入れてくれました。その後も医局が私を1人の医局員・呼吸器外科医として扱ってくれたことを、今は本当にありがたく思っています。娘が中学3年生となった現在、

医局や出向先、家族の理解・配慮・支援のおかげで私は呼吸器外科医を継続し、多くの尊敬できる先生方にめぐり逢い、自分なりの成長をすることができています。

キャリアパスは従来いわれていた上るか下るかしかない狭い梯子のような道ではなく、自由な回り道がありながらも上を目指せるジャングルジムのような道である、とはFacebookのCOOシェリル・サンドバーグが著書Lean inの中で引用

した、Fortune誌のペティ・セラーズの言葉です。どの道を正解とするのではなく、自分らしく呼吸器外科医としての道を歩み続けられるよう、また時に若い先生にとってのロールモデルとなれるよう、がんばっていきたいと思います。20年目とはいえジャングルジムの道を通過中の私は、まだまだ一人前には程遠い状態です。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



松本 幸子  
(埼玉県済生会薬橋病院)  
卒業大学：東京女子医科大学  
経歴：1996年東京女子医科大学第一外科入局  
国立徳島所東宇和島病院、済生会薬橋病院、聖隷沼津病院、総合南東北病院、和立府中病院への出向を経て  
2004年8月より済生会薬橋病院に出向  
2015年4月より呼吸器外科担当部長 現在に至る  
趣味：ミュージカル鑑賞  
好きな言葉：みんなちがってみんないい